

自由応募分科会 2 「一带一路とアジアインフラ投資銀行は中央アジア政治経済をどう変えるか?—複層的複眼的検討—」

報告 1

田中マリア (愛知大学リサーチアシスタント)

「アジアインフラ投資銀行 (AIIB) が中央アジアに与える変革的インパクト: 国際開発金融機関 (MDBs) の協調融資を事例として」

The Transformative Impact of the AIIB on Central Asia: The Case of the MDBs Co-Financing Framework Agreements

台頭する中国を解明するために、近年二つの大きな議論が生じている。第一は世界秩序・東アジア秩序の変容をめぐる「21 世紀型の朝貢システム」復活に関する議論であり、第二は「中国式発展モデル」の形成と伝播に関する議論である。本分科会はこの二つの観点から、中国が提案する「一带一路 (OBOR)」構想とアジアインフラ投資銀行 (AIIB) が中央アジアの政治経済をどう変えるか、という研究課題を多角的に分析する。

その上で本報告は、中央アジアにおける AIIB、世界銀行 (WB)、アジア開発銀行 (ADB)、欧州復興開発銀行 (EBRD) といった国際開発金融機関 (MDBs) の協調融資を事例として、AIIB が中央アジアに与える潜在的なインパクトを多角的に分析する。特に、①MDBs の開発支援協力の地政学的文脈、②AIIB と他の MDBs 間の協調融資契約 (特にセーフガード政策)、③現在中央アジアで進行中の三つの協調融資プロジェクト、の観点から検討を進める。

本報告の理論的枠組みは、AIIB を社会対象 (social entity) として扱う。この社会対象は、社会プロセスの各レベル (グローバル、リージョナル [中央アジア]、ナショナル [中国]、ローカル [新疆ウイグル自治区]) の四レベルを設定する) で、様々な社会構造・社会制度を生成する。したがって、この理論的枠組みを設定した目的は以下の二つにある。第一に AIIB が生成した創発的性質 (emergent properties) としての構造・制度が、各レベルの社会秩序 (地域秩序と世界秩序を含む) をどの程度まで変革させる可能性があるかを評価することにある。第二に AIIB が生成した「グローバル・リージョナル・ナショナル・ローカル」システムの外部構造 (exostructures) が、各システム間で互いをいかに助長し、あるいは抑制するかを明らかにすることにある。